

(1) 全体の実践

① 大子町読書推進事業及び大子町「子ども読書の街」推進委員会

ア 組織

役 職	平成 19 年度委員 (所属)	平成 20 年度委員 (所属)
委 員 長	高梨 保彦 (大子町教育委員会)	高梨 保彦 (大子町教育委員会)
委 員	省略 【各専門部会組織図参照】	省略 【各専門部会組織図参照】
事 務 局	省略 【各専門部会組織図参照】	省略 【各専門部会組織図参照】

イ 実践経過

月	平成 19 年度 (日・曜日)	平成 20 年度 (日・曜日)
4 月	「うちどく(家読)」推進校指定 ・だいご小学校, 大子西中学校	「うちどく(家読)」推進校指定 ・上小川小学校, 黒沢中学校
5 月	うちどく(家読)推進連絡会議開催 (23 日・水) ・事業内容説明 ・推進校計画・実践報告 だいご小学校, 大子西中学校	第 1 回大子町「子ども読書の街」推進 委員会開催 (22 日・木) ・推進委員委嘱 ・事業概要説明, 実施計画提案 ・専門部会部員指名 第 1 回大子町「子ども読書の街」推進 委員会連絡調整会議開催(22 日・木) ・各専門部会部長及び副部長報告 ・各専門部会協議事項報告
6 月	大子町議会にて『読書のまち』宣言 を議決 (13 日・水)	町長と読書推進事業関係者との意見 交換会 (20 日・金)
7 月		
8 月		
9 月	『読む・調べる』習慣確立に向けた 実践研究事業」事業開始 (26 日・水)	
10 月	第 1 回大子町「子ども読書の街」推進 委員会開催 (19 日・金) ・推進委員委嘱 ・事業概要説明, 実施計画提案 ・専門部会部員指名 第 1 回大子町「子ども読書の街」推進 委員会連絡調整会議開催(19 日・金) ・各専門部会部長及び副部長報告 ・各専門部会協議事項報告	第 4 回奥久慈大子まつり参加 (26 日・日) ・大子町「子ども読書の街」に関わる 広報宣伝活動 ・うちどく(家読)指定校生徒による読 み聞かせ 大子西中, 黒沢中
11 月	第 2 回大子町「子ども読書の街」推進 委員会連絡調整会議開催(16 日・金)	

	・各専門部会実践経過報告	
12月		
1月		
2月		
3月	第2回大子町「子ども読書の街」推進委員会開催 (19日・水) ・平成19年度事業報告 ・平成20年度事業計画(案)	第2回大子町「子ども読書の街」推進委員会開催 (19日・木) ・平成20年度事業報告

成果と課題

ア) 成果

○ 「うちどく(家読)」推進校指定について【資料1】

平成19年度、20年度の小中学校の指定校を中心に積極的な活動が行われた。「うちどく(家読)」の推進のために、図書の購入、図書館の整理、うちどく(家読)だよりの発行、PTAの協力、講演会、読み聞かせの実施等、各校で多様な実践が成された。また、指定校以外の学校でも「うちどく(家読)」に取り組み、「うちどく(家読)」だよりを発行した。それらを各校で交流し情報交換を図りながら、実践に努めた。



【うちどく(家読)指定校
黒沢中の読み聞かせ教室】

それらの活動を通して、各校児童生徒の読書に対する意欲が向上し、読書量が増えると共に、学校や家庭が連携しての読書活動推進の気運が高まった。

○ 「読書のまち」宣言について【資料2】

平成19年6月に広く町内外に向けて大子町議会において「読書のまち」を宣言した。「読書を通しての豊かな人づくり町づくり」を念頭に掲げ、乳幼児期から成人期までを見通して、また、学校、家庭、地域等町全体で取り組んでいくことを確認し、具体的な施策についても宣言に盛り込み、その具現化に努めた。



この宣言を通して、町民の読書に対する意識が高まり、それらの意識がその後の様々な実践に活かされた。

○ 大子町「子ども読書の街」推進委員会及び連絡調整会議について【資料3】

平成19年、20年度の2か年にわたり、64名の委員を委嘱し、推進委員会を組織し、本町の読書推進事業の中核を担った。

推進委員会では、年2回の全体委員会で推進委員全員の参加のもとに、事業の全体像を見通し、目標や具体的施策を共有した。また、5つの専門部会を設置し、それぞれの部会で事業計画を立案し、その実践に努めた。



【大子町「子ども読書の街」
推進委員会】

推進委員会の委員は、教育委員会関係者や学校関係者だけでなく、社会教育関係者、地域団体関係者、民間団体関係者等、広く町内から人材を集めた。それぞれの立場からの意見を募ることができ、実践についてもそれぞれの委員の立場を活かしながら活動することで、本町の読書推進事業を町民に広く伝えることができた。

また、連絡調整会議は、各専門部会の取組状況の共通理解を図るために各専門部会の委員長と企画委員会委員の参加のもとに開催した。それぞれの部会が取り組んでいる内容について共通理解をもちながら、連携して実践に当たることができた。

(イ) 課題

○ 「うちどく(家読)」推進校指定について

推進校を指定することで成果が上がっている。平成21年度以降も毎年小中1校ずつ推進校を指定し、実践を継続していく予定である。

各指定校の実践が単年度で終わらずに指定終了後も継続していくようにすると共に、他の学校とも連携を図り、新しい指定校の実践が充実するようにしていくこと、その連携のための具体的な施策を講じることが今後の課題である。

○ 「読書のまち」宣言について

「読書のまち」宣言のもとに取り組んでいる本町の読書推進事業を今後も継続していくこと自体が大きな課題である。そもそも読書の成果は一朝一夕に出るものではなく、継続することで自然と根付いていくものであると考える。常に「読書のまち」宣言を中心に据え、意識し、事業を継続していくことを意識したい。

○ 推進委員会及び連絡調整会議について

事業を推進していく上で、組織を維持し活動を継続していくことが課題である。町全体での事業であるため、この事業を継続していくためには広く人材を募った組織の維持が必要不可欠な条件である。常に話し合いの機会をもちながら、実践の深化拡充に努めていきたい。

また、組織や役職に囚われずに、一人一人の町民が読書に取り組み、自分でできることを実践していく雰囲気醸成したい。そのためにも、推進委員という核となる役職の人材を広く募りたい。

ひといでも読める 家族で読めばもっと楽しい

うちどく(家読)をすすめよう
今、うちどくが楽しいね



ラストメッセーj
ラストメッセーj



お父さんも
また、よみたいよ

いっしょに読むの
たのしいね

またよんでね



よんで



おばあちゃんも
よみたいね

みんなでよみましょう



全国学力テスト結果から証明されました。
読書が好きで、たくさん本を読んでいる児童生徒は、学力が高い！

→ 裏面のグラフ参照

大子町教育委員会

あ と が き

『ほしいもの 冬の炉ばたの暖かさ もうひとつ 人の心の温かさ』

童話作家・浜田広介さんの言葉です。昨年2月、大子町「子ども読書の街」推進委員会研修視察で、山形県高畠町にある雪深い「浜田広介記念館」を訪れました。しばれる冬。降り積もる雪。家族はどんな思いで炉ばたを囲んでいたのでしょうか。どんな話をしていたのでしょうか。「泣いた赤おに」「りゅうの目のなみだ」などは、冬の炉ばたからすべて生まれた作品でありましょう。人と人が心を紡ぐ^{つむ}原点がここにあり、まさに、読書を通じて養われる^{そくいん}「惻隱の心」の発露がここにあり。

大子町は「うちどく（家読）」を全国にさきがけてスタートしました。町内の小学生数名が読書について話し合い（「子ども会議」）、この「うちどく（家読）」が産声^{うぶごえ}をあげたことを今でも鮮明に記憶しています。

大子町は、「読書のまち」宣言、ブックスタート、「子ども読書の街」指定自治体（文部科学省）、読書推進町民大会、講演会、町図書館「プチ・ソフィア」の充実等々を実践し今日に至っています。読書を通じて心の豊かさを育てる町づくり、読書のすばらしさを全国に発信する町づくりを目指してきました。

本報告資料集は、指定による2年間の創意ある取り組みを集大成したものです。今後、より効果的に活用をしていただくために、事業の概要、事業の内容等についてより見やすく、また利用しやすく掲載しました。事業の成果と考察については、焦点化、重点化を図り、これから先の活動の改善・工夫に役立ててくださることを願っております。

最後になりましたが、これまで支えていただいた大子町の皆様、大子町「子ども読書の街」推進委員会（各専門部）各位、大変お世話様になりました。並びに、側面からのご支援を賜りました方々に深甚なる謝意を表します。

大子町「子ども読書の街」推進委員会 総務部会部長

松 本 成 夫